#### 蘭和対訳文例集「柳圃文集」の作者は誰か : 志筑忠 雄研究外伝

大島, 明秀 熊本県立大学

https://hdl.handle.net/2324/4371067

出版情報:文彩. 17, pp. 26-33, 2021-03-01. 熊本県立大学文学部

バージョン: 権利関係:

# ―志筑忠雄研究外伝― ―志筑忠雄研究外伝― の作者は誰か

大島明秀

### はじめに

『言海』を編んだ大槻文彦を弟に持つ大槻如電(修二)背景にある。

見当たらない。

「関立国会図書館には、如電が刊行を構想をころで、国立国会図書館には、如電が刊行を構想をいる。」。

「別の大学に遡る作品ということになるが、一瞥してその根拠はをの第五章上(文学篇)には、「柳圃文集」という名のをの第五章上(文学篇)には、「柳圃文集」という名のをの第五章上(文学篇)には、「柳圃文集」という名のをが、「一覧を表する。」

「関本洋学史」が残されており、

能性を提示する。の信憑性について吟味しつつ、各種問題点や様々な可の信憑性について吟味しつつ、各種問題点や様々な可も交えて構成内容を分析することで、志筑忠雄作者説た「柳圃文集」の概要を案内するとともに、海外資料た「柳圃文集」の概要を案内するとともに、海外資料をこで本稿では、これまで俎上に上げられてこなかっ

# 、「柳圃文集」の構成と大槻如電の導入

成内容は次の五つに整理することができる。れに対応する和文を一対とする文例から成り、その構集「柳圃文集」は、大槻如電による導入と、蘭文とそ大槻家蔵資料を底本として翻刻された蘭和対訳文例

## ①大槻如電の導入

③格言の蘭和対訳文(蘭文のみ署名あり)②通詞起請文九箇条の蘭和対訳文(年紀、署名なし)

④「八丈ヶ島人泣教諭」の蘭和対訳文(蘭文・和文と

なし) (⑤普通文四例と和歌三例の蘭和対訳文(年紀、署)

成内容①の導入部は、当該資料に対する如電の説明でに記し、ついで和文を掲載する順が取られている。構構成内容②~④は文例で、これらは必ず蘭文から先

ある。 それでは①を見てみよう。

篇ヲ左ニ挙ク。但シ通詞起証文ハ既ニ上ニ出シタレ 相対シテ毫モ齟齬スル事ナシト云フ。今其中ノ両三 ヲ横文ニ訳セシ者ニテ、其巧妙ナル事ハ、彼我両文 書キ綴ル事モ亦妙ヲ得タリ。 「ル者ナラン。 原文ト対照センガ為メニ再ヒ此ニ載ス2 圃 ハ蘭文ヲ翻訳スルニ巧ナルノミラス、蘭文ヲ 柳圃文集ト称スルー巻アリ。 蓋其文法ニ熟達セシニ 皆国文

書き十 個 左 L 极 12 tip' [6] 举 Ų. 鮅 4 M ri aa) Æ SA. de. 7 义 鮾 \* 7 Ac. \* t 看 翩 a 纳 认 文 7 3 JŁ. 18 Ų. Ł 15 ŀ \* -秋 表步 \*) 75 出 汉山 X, + 7 共 今共 文 1 一メアリ \*\* ;k \*\** 섽 強 N M رذ J. 皆 2 文 (8) 40

図1 大槻如電の導入 (国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

ようである。 電は「志筑忠雄作」であることに疑問を抱かなかった 集ト称スルー巻」であったようで、この表題から、 どうやら底本とされた大槻家蔵資料自 体が「 柳圃文 如

ができる。 あって、その訳として蘭文が作られたものと見ること 少なくとも②④⑤については、 容②の通詞起請文や、④の「八丈ヶ島」という地名、 文ヲ横文ニ訳セシ者」と述べているが、 して⑤の和歌は言うまでもなく日本固有のものなので、 また、
蘭文と和文の成立順序について、 間違いなく和文が先に 確かに構成内 如電は 「皆国

van Qiowa(享和三年八月)との年紀が認められ、 編まれた資料と考えてよい。 から「柳圃文集」は享和三年 なお、④には唯一 Op achtste maand des derde jaars (一八〇三) 八月以降に ここ

# 構成内容の検討

る。 格言、②オランダ人に対する通詞起請文、ならびに④「八 集」の構成順とは異なるが、 丈ヶ島人江教諭」の順に取り上げ、 作者や資料成立に関わる可能性を探るべく、 以下、 それぞれ考察を加え 構成内容のうち、 柳圃 文

### (1) 格言

zijne geleerdheid, waarin hij vele anderen boven gaat ren kundig maakt en zich daardoor verwer†t.
met het hollandsch oppelsteld maar in de mildheid en nederigheid, waarmede hij ande De grootste Deugd een geleerde bestaat niet in Coor

Yosiwo Rokziro

あらすして其寛と謙とを以て人才を成し 先覚の大徳ハ其才学の諸人に越たるに て誉を獲るにあり3

さにある」となり、和文の内容が概ね一致しているこ て他人に知識を与え、自身を手に入れる寛大さと謙虚 とが分かる。ただし、和文がそこで終わっていること は、他を凌ぐその学習にあるのでははなく、それによっ 行に及ぶ格言を現代日本語に訳すと、「学者の最大の徳 図2は構成内容③の全文である。蘭文第一行から第四

ボルト(Philipp Franz Balthasar von Siebold)の通訳を

て明記されている吉雄六次郎とは、長崎の鳴滝塾でシー

成する〉の過去分詞)の誤写だと見られ、そう考えると、

蘭文第五行の oppelsteld は opgesteld(opstellen〈作

る情報を見逃していたことは問題である。

まで第五行から最終第七行に記されている作成者に係

大槻如電をはじめとする読者が、

これ

に起因してか、

第五行から第七行の現代日本語訳は、「オランダ語での

作成は吉雄六次郎による」となる。ここに作成者とし

て茶と様といいとりててするがのけて、まかんなるが

図2 上部に格言の蘭文、中部にその対訳和文が見える (国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

者は志筑ではなかった。 反映していたかもしれないが、少なくとも直接の作文あったことから、蘭文には志筑蘭語学の方法や方法が務めた吉雄権之助のことで、同人が志筑忠雄の門弟で

### (2) 通詞起請文

こでは便宜上、第一条の蘭文と和文を併記する。原文では蘭文が九条続いてから和文が後続するが、こにわたる起請文である。以下、第一条を引用する。なお、構成内容②は、阿蘭陀通詞が誓約させられた九箇条

Nademaal ik door de overheid aldus tot hollandsche.....tolk aangesteld zij, zoo zal ik haar voortaan in all zaken, zonder de minste veinzerij, zoo zorgvuldig en zoo bedachtzaamlijk, als het mogelijk is, gehoozamen; en de keizerlijke oude wetten benevens de daarna uitkomende bevelen stipelijk nakomen.

被仰出候趣堅相守可申事4事心之及丈者入念大切に相勤従前之御法度を始以後私儀阿蘭陀御通詞被仰付候上ハ毛頭後闇儀不仕諸

容を正確に反映している。

れた命令を厳格に履行する」となり、

通詞起請文の内

可能な限り従う。

帝国の古い法に加え、

下ルール大学)に所蔵されるシーボルト・コレクショ

ここで問題なのは、ドイツ・ルール大学ボーフム(以

ンに同じ文章が確認できることである〟。綴りや単語に

後諸事において、最小の偽りもなく、慎重かつ用心深く、

ようにオランダ語の…通訳に任命されるからには、今

蘭文を現代日本語訳すると、「私は政府によってこの

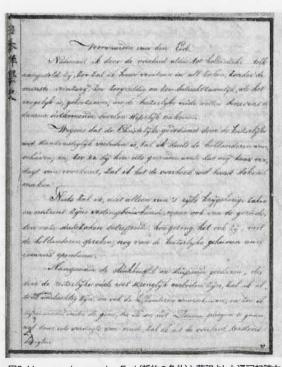


図3 Voorwaarden van den Eed.(誓約の条件)と蘭訳された通詞起請文 (国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

多少の異なりが確認できる場合があるが、基本的には多少の異なりが確認できる場合があるが、基本的にはいた可能性も捨てきれない。シーボルトの資料や情報の入手に際して、その大半は吉雄権之助が関与していること、ならびに先述した構成内容③の作成者を勘案すると、ならびに先述した構成内容③の作成者を勘案すると、ならびに先述した構成内容③の作成者を勘案すると、ならびに先述した構成内容③の作成者を勘案すると、いた可能性も捨てきれない。

の作文である証拠は見当たらない。を作成したとは考えにくい。いずれにせよ、志筑忠雄野にあったので、阿蘭陀通詞間に伝わる起請文の蘭文野にあったので、阿蘭陀通詞間に伝わる起請文の蘭文請文は熟知していたであろうが、若くして職を辞しておお、志筑忠雄は稽古通詞を勤めたので当然通詞起

# (3)「八丈ヶ島人江教諭」

### 「柳圃文集」

に者これ其身を大切なりとするが故なり着物、毎日之食物の如也。皆おのれを養ハんが為にとならバ、凡そ人の求る所之常の住所、時々の人生れてハ、おのれほど大切なるものなし。如何

【ルール大学蔵シーボルト・コレクション】

るも、是皆現身を愛するゆゑなりけりいわす、夏冬の着物をもとめ、朝け、夕食に飽さし。われを養はんかために、常の住所ハさらにもをもく、人と生まれてハ、おのれより可愛きハな

など様々な謎を孕んでいる。 など様々な謎を孕んでいる。 など様々な謎を孕んでいる。 など様々な謎を孕んでいる。 など様々な謎を孕んでいる。 かように両者の文意は一致するものの文体が全く異かように両者の文意は一致するものの文体が全く異など様々な話を

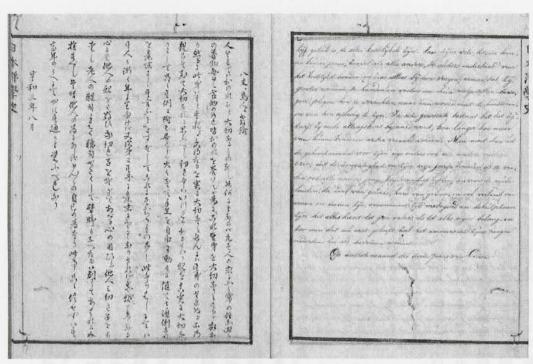


図4 左は「柳圃文集」中の「八丈<sup>ヶ</sup>島人<sup>江</sup>教諭」、右はその蘭訳の後半部で、末尾に年紀が見える (国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

が多く、さらなる謎解きは後日に俟つ。 する仮定である。 そしてその蘭文に基づいてもう一つの和文を作ったと 者を想定して年次が分かるように干支を元号に変換 の構成内容と同様に、 能性を現 ならば、 ヶ島人
江教論
」が第二和文となるが、 教諭」が第一和文で、「柳圃文集」に所収された「八丈 した和文を起草し、 手順が考えられよう。 話を本題に戻すと、享和三年八月の年紀を信 志筑忠雄は存命しており、 、時点で完全に排除することは かかる場合、 次にその蘭文を作成する際に、 志筑の作文であることを積 すなわち、 ルール大学蔵「八丈島 まず干支の署名を付 蘭文を作成 いまだ不確定要素 できな が、 した可 用 極 する 他

に裏付ける記述が認められないことに変わりはない。

さず、「癸亥」という干支を記しているのかという問

なぜ蘭文署名中の元号 Qiowa を訳

が残る。

これらを整合的に説明する一例として、

次のような

ろうが、だとしても、当該蘭文を底本としたならば、

ル大学蔵の和文が、

の誰かが)もう一つの和訳を作成したと見るべきであ

にそこから蘭文を創出し、ていることを勘案すると、

第三にその蘭文を元に第一に和文があって、

第一

(別

#### おわりに

き彫りにした。現時点で考えうる可能性や問題点を浮た「柳圃文集」の構成内容に検討を加えたところ、一た「柳圃文集」の構成内容に検討を加えたところ、一部の作成者が吉雄権之助に遡ることが判明した。加え部の作成者が吉雄権之助に遡ることが判明した。加えまで、「柳圃文集」の構成内容に検討を加えたところ、一を制造した。

の人物の手に成る可能性が高いという結論に至った。ることはできず、むしろ吉雄権之助をはじめとした別「柳圃文集」の構成内容が志筑忠雄に遡る文章と断定すど取り組むべき課題は山積しているものの、現時点では以上より、蘭文文体の分析やさらなる他資料の発掘な

#### 注

1 大久保利謙『洋学史家としての呉秀三先生』(『日本1 大久保利謙「洋学史家としての呉秀三先生」(『日本1 大久保利謙「洋学史家としての呉秀三先生」(『日本1 大久保利謙「洋学史家としての呉秀三先生」(『日本

## 二〇九頁にて論及。

- を付した。以下、全ての引用文で同。 2 便宜上、旧字は現在通用する字体に改め、句読点
- 改めた。

  3 改行は底本を反映した。また、和文の向きを縦に
- を縦に改めた。 4 改行は底本を反映しなかった。また、和文の向き
- Die Sieboldiana-Sammlung der Ruhr-Universität Bochum, 1.166.016, 84r-85v. Sven Osterkamp 先生 の御教示によって本資料の存在を知った。

5

6 Die Sieboldiana-Sammlung der Ruhr-Universität Bochum, 1.368.000. なお、フォン・ブランデンシュタイン家蔵シーボルト関係文書中にも同様の和文(年紀は干支)と、それに加えて蘭文も所蔵されているという。いずれも Sven Osterkamp 先生の御教示による。

#### 付記

ブランデンシュタイン家文書中に存在することは Svenル大学ボーフム蔵シーボルト・コレクションやフォン・を賜った。また、「柳圃文集」と関係の深い資料が、ルー「柳圃文集」の存在については吉田忠先生から御教示

感謝の意としたい。 の他蘭文解釈についても知見を賜った。ここに記しての他蘭文解釈についても知見を賜った。ここに記して

#### 熊本県立大学文学部 『文彩 BUN-SAI』 第17号

 \* 発
 行
 2021年3月1日

 \* 発
 行
 所
 熊本県立大学文学部 熊本市東区月出3丁目1番100号

 \* 印
 刷
 キンコーズ熊本市役所前店 熊本市中央区花畑町9-6 1F